

科目名称	病理学	学年学期	単位数	時間数
		1 学年後期	1	30
担当教員	宮脇 恭史	授業に関わる実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (衛生検査技師) <input type="checkbox"/> 無	

【1】 授業概要

病理学を学ぶことによって、疾病の原因・疾病構造について学ぶ。

【2】 学習目標

1. 疾病の原因・疾病構造について理解できる。

【3】 第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳および権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心を持ち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	病因・代謝障害・病変(内因・外因、進行性病変・退行性病変)	講義
2	栄養障害(ビタミン、ミネラルなど)	講義
3	感染症(感染経路、病原体)	講義
4	循環障害 1(血液、体循環障害)	講義
5	循環障害 2(循環器障害)	講義
6	循環障害 3(血管障害)	講義
7	先天疾患 1(遺伝子異常による疾患)	講義
8	先天疾患 2(染色体異常による疾患)	講義
9	腫瘍(代表的な腫瘍)	講義
10	白血病	講義
11	免疫障害 1(免疫系、免疫不全)	講義
12	免疫障害 2(アレルギー性疾患)	講義
13	内分泌障害 1(ホルモンと内分泌器官)	講義
14	内分泌障害 2(代表的な内分泌疾患)	講義
15	筆記試験・まとめ	

【5】 評価方法

筆記試験

【6】 教科書

大橋健一: 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学(第6版) 2026(電子版)

【7】 参考書

配布資料

【8】 受講生へのメッセージ